

2015. 9. 15 第21回口頭弁論期日後の記者会見要旨

福島第一原発の事故から4年半経ちました。まだまだ事故は収束していません。先日の大雨で、福島県では、除染した土を入れていた袋が多量に流されたとのこと。福島第一原発からは、未だに大量の放射性物質が環境に放出され続けています。帰りたくても帰れない人々が大勢います。そのような状況にあるにも関わらず、政府は、多くの国民の反対にもかかわらず、原発の再稼働を強行する姿勢を崩していません。政府は、原子力規制委員会が安全を確認した原発から再稼働させていくと言います。電力会社は、原子力規制委員会が新規規制基準に適合していると判断したら安全だと言うのですが、原子力規制委員会は、規制基準に適合しているかどうかを審査するだけで、安全性を審査するのではないと言います。結局、自分の責任で安全だと言う者が誰もいないのです。責任をとる者が誰もいないのです。そのような状況で原発を再稼働させていいはずはありません。

鹿児島県の川内原発1号機は、8月11日に再稼働しました。2年弱、我が国では原子力発電所が全部停止していました。それでも、電力不足にはなりません。この間、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーをつかった発電が大きく伸びました。原発に頼らなくても日本経済は破綻しなかったのです。川内原発の再稼働には、火山の噴火に対する対策が不十分だと多くの住民が反対していました。今年になり、5月29日に口永良部島で、8月には桜島で、昨日には阿蘇山で噴火がありました。自然が人類に警告を発しているように思えてなりません。

ところで、最近、静岡県内での地震が多くなりました。更に9月12日には、東京湾で地震がありました。フィリピン海プレートで起きた地震だとのこと。自然は、このように、南海トラフ巨大地震の発生が間近だと警告を発してくれているのではないのでしょうか。浜岡原発は、予想される東海地震の震源域の真上に立地する世界で一番危険な原子力発電所です。防災科学研究所の理事長岡田義光さんは、「原発は、はるかに安全サイドに考えなければなりません。いちばん安全側に考えれば、日本のような地殻変動の激しいところで安定にオペレーションすることは、土台無理だった」と述べています。このような考え方こそ、福島第一原発の事故を経験した我々が共通に持つべき考え方のはず。浜岡3、4号機は、原発史上最悪の事故を起こした福島第一原発と同じ古い沸騰水型の原子炉ですから、福島原発の事故原因が究明されるまでは、少なくとも同類型の原発の再稼働は認められるべきではないと考えます。

既に溜まっている大量の使用済み燃料に加えて、再稼働すれば、更に多くの使用済み燃料が発生します。これらの使用済み燃料を10万年後まで安全に保管する方

法はないのです。私たちの世代には、将来の世代に、更なる負担を強いる権利はないはずです。

浜岡原発の再稼働を認めないために、私たちは、今後も、粘り強く活動を進めていきます。多くの方々の応援と協力をお願いいたします。

弁護士 鈴木 敏 弘